

春

SYUNJUSAI
熊本県立大学・学報
2003.3
VOL.18

秋

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の詞書「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

彩

特集：県大生の実像に迫る！



Contents

- | | | | |
|---|--------------------|----|-----------------|
| 1 | 特集1：県大生の実像に迫る！ | 9 | 本学での研究状況 |
| 5 | 大学院環境共生学研究所修士課程を新設 | 11 | 就職・卒業生からのメッセージ |
| | 特集2：地球と共に、地球を友に | 13 | サークル便り |
| 7 | 研究内容の紹介 | 14 | 熊本県立大学後援会からのたより |
| | こんな研究しています。 | 15 | CAMPUS NEWS |
| 8 | 留学体験 | 18 | epilogue 学長の言葉 |
| | 随筆 | | |
| 8 | 教員の紹介 | | |
| | 我が師 | | |

県大生の実像に迫る！

「優秀だけどおとなしい」、県大生に対する印象としてよく耳にする言葉です。しかし県大生は、それだけではありません。大学での勉強はもちろん、スポーツ、趣味、そして地域の中でと、様々な分野で頑張っています。今回は、そうした頑張っている元気な学生の中から、5人と2グループを紹介します。

留学先のモンタナ州立大学ビリングス校で 留学生リーダーシップ賞受賞

総合管理学部総合管理学科4年

古川 舞さん



写真右

古川さんは、留学先のモンタナ州立大学ビリングス校で、地域ボランティア活動に積極的に参加するとともに、秋季セメスターにおいてGPA4.0（満点）という優秀な成績を修めた功績により、「留学生リーダーシップ優秀賞」を受賞しました。

*GPA（グレード・ポイント・アベレージ）とは、米国で一般的に行われている学生の成績評価方法の一種です。

「ボランティア活動は、日本とは異なり、特別なものではなく、日常の至るところにあふれています。活動内容は地味な仕事、肉体労働などが多かったのですが、仲間と一緒に活動することで、地域

や社会とのつながりを感じることができ、多くの人と出会えることができました。」

「英語は、留学当初は先生が授業



で言われていることが全くわからないというレベルで大変でした。留学生も、他の学生と同じ授業を受け、単位をとらないといけないので、授業の前後は、毎回のように、先生を訪問し、授業の内容、課題の確認をしていました。そして、レポート作成、授業の予習や復習と、こんなに勉強したことはないというくらい頑張り、授業についていくことができました。ほとんど毎日のようにWriting Labに通い、チューターにレポート添削してもらっていたので、周りから『Writing Labの住人』と言われていました。」と笑いながら語ってくれましたが、古川さんの人並みではない努力が認められ、表彰に結びついたようです。

グラススキー全日本選手権優勝、 グラススキーワールドカップ入賞

総合管理学部総合管理学科3年

西山 久美さん



西山さんは、昨年のグラススキー全日本選手権の回転、大回転の両種目で優勝するとともに、イランで開催されたワールドカップに日本代表として出場し、回転種目で6位入賞という輝かしい成績を残しました。

「競技の年齢層が幅広く、異年齢の人との交流の機会が多いですね。また、世界選手権でイランに行ったことで、文化の違いを肌で感じ、視野も広がったと思います。小さいことでよくよもしくなりました。グラススキーを続けていることで、スキー以外のこともたくさん学んでいます。」

大学生活とグラススキー競技の両立については、「大学に入学する時から勉強とスキーの2つが目標であり、苦にはならない。むしろ、常に勉強をしたいという気持ちですね。」

今後の目標については、「国内でナンバー1になったけれど、今は、他のプレイヤーと比較しての相対的な一位。ダントツのナンバー1になりたい。そして、世界選手権でも表彰台に上がりたい。」と語ってくれました。目標に向かって頑張ってください。



本学では、特に優れた学生を表彰する学長表彰制度があり、平成14年度、3名の学生が受賞しました。

第3回草枕文学賞入賞

文学部日本語日本文学科4年

澤村 文子さん



「自分のレベルを知りたい、自分の小説書いた物を形として残したい」という思いから、澤村さんは、第3回草枕文学賞に、1年間かけて書き上げた「雨間」という作品で応募し、20代としてはただ一人入賞を果たしました。

物語をつくるのが好きで、中学から冒険小説を書き始めたという澤村さん。「好きなジャンルは新本格ミステリーで、実は、いわゆる文学作品、夏目漱石もあまり読んでいないんですよ(笑)」

「作家」として、日頃心がけていることを尋ねると、「普段の生活の中で見聞きしたこと、感じたことが頭の中で無意識に文章化されています。毎日書いていますが、断片的なもので、ストックをしているようなものですね。良い文章を書くには、「素直に書くことが大事で、技巧はその次ですね。抜きん出るためには、良い手本を読み、言葉を知ることが大事です。表現力で差がきます」とのアドバイスをいただきました。

このまま作家一筋を目指すのではなく、卒業後は就職して自分の幅を広げながら、一生書き続けていきたいとのことでした。

学生による地域貢献 - 大学で学んだ専門知識を地域に還元しています。

環境共生学部居住環境学専攻
坪原研究室

「菊池プロジェクト」

甞れ商店街!

去る2月25日、環境共生学部居住環境学専攻坪原研究室4年生の5名(渡辺幸子さん、西山正宏さん、坂井真由美さん、山崎藍さん、富永由希さん)が、菊池市の中央公民館において、菊池市商店街を中心としたまちづくりについての報告会を開催しました。

5名は市の商工会と商工会連合会の協力のもと、平成14年10月から週1回のペースで菊池市を訪れ、「甞れ



商店街!若者からみた提言」と銘打った菊池プロジェクトを商店街の空き店舗を拠点として取り組んできました。これまで、小学校・中学校・高校へ出向き、授業の中で生徒との街歩きやワークショップを3回、老人会、福祉団体、その他一般市民を対象としたまちづくり会議等を2回開催し、現在の商店街が抱える課題及び今後のまちづくりの展望について調査研究を行ってきました。

当日は、報告会が始まる30分前から商工会職員や商店街の店主、婦人会から沢山の人が訪れ、緊急にイースを増設するほどの出席者でした。商工会経営指導員の坂本さんからは「今までも商工会でまちづくりのアンケートを実施してきたが、小・中・高を対象としたアンケートの実績はなく、どの様な報告がなされるか楽しみ」と期待十分。

報告会が始まると、学生達がパワーポイントを使いながら、商店街の環境整備の現状や課題を説明した後、歩行者・自転車等基本とした交通整備、観光資源の活用、市民が一体となった協働体制の3つのポイントからまちづくりの提案を行いました。

商工会青年部長からは、「レンタサイクルや菊池の農産物を使った郷土料理店の出店など、自分達が思いもなかったことを気付かせてくれた。一般出席の女性からも、先立つものは財源だが、市民の協力、意識次第でどうにもなると感じた」と、それぞれの参加者が今後のまちづくりのヒントを得られた様子でした。学生達の苦労と希望が将来の菊池のまちづくりに生かされれば最高です。当の本人達は報告会終了後、緊張



から解き放たれ満面の笑み。5名からは、「ワークショップを開くのは初めてで良い経験だった(リーダー、渡辺さん)」、「様々な世代、職種と意見を交わせたことが楽しかった(西山さん)」、「やればできるということが分かった(坂井さん)」、「学校の授業にはないものを体で学ぶことができた(山崎さん)」、「人をまとめることの難しさが分かった(富永さん)」と短い言葉の中に凝縮された今回のプロジェクトへの思いが伝わってきました。

この後5名は大好きな菊池の温泉街へ。多くの経験をし、様々なことに悩み、そして5名が協力し乗り越えることができた友情は、きっと今後の人生において大きな糧となってくれることでしょう。ゆっくり疲れをとってください。お疲れさまでした。

学外の活動、趣味を通して学んでいます。

学生に議員インターンシップを紹介

「子どもの頃から目立つことが大好きで、手を挙げないと損をすると、学級委員、生徒会役員を立候補してやってきたという野村さん。最初は「ドットジェイピー」の設立準備を手伝わないかと誘われ、政治家と知り合えるのは面白そうという軽い気持ちで手伝っているうちに、代表になったそうです。

「スタッフ10人のうち、県大生が8人。顧客である議員やインターンシップに行く学生の満足度はもちろん、スタッフのモチベーションをいかに高めるかに気を配っています。」と、代表としての自覚がうかがえました。

「実績を上げなければというプレッシャーも大きいですね。今期は、2月から3月にかけて、県内では13人のインターン生を派遣しています。ちなみに13人のうち、12人が県大生です。」



野村 卓馬さん
文学部日本語日本文学科2年

NPO法人「J.P.P.」(ドットジェイピー)九州設立準備室「代表

文学活動を通して、交流を広げています。

「俳句イコール高齢者の文学という偏見は捨ててほしいですね。俳句は『言葉のかけら』、すべてを表すわけではありません。言葉として出ている部分で世界を表します。世界的に注目されているのに、本家の日本では理解されていないのが残念」と矢継ぎ早に言葉が出てくる伊東さんは、「現代俳句協会」で全国で2番目に若い会員です。協会での活動のほか、「English Haiku Society」という英語俳句に関するワークショップで、樋口教授(本学文学部)や県内他大学の先生方と週1回集まり、「Instagram」の俳句の翻訳などをやっています。学内で文学活動を一緒にやる仲間を募集中です。

また、大学での伊東さんは、授業で必ず質問する議論好きで、文学部ではちょっとした有名な人です。「授業では浮いているでしょうね。でも、僕は、皆がなぜ何も発言しないのかが不思議です。もったいないと思います。授業についても設備についても、学生は大学を十分に活用しきれれていないですよね。」



伊東 裕起さん
文学部英語英米文学科2年

現代俳句協会会員



昨年度に引き続き、本学を受験生にPRする「大学案内」作成の学生スタッフを募集しています。自分が県大をPRするぞ、というやる気のある学生の参加を待っています。

スタッフ募集中！

博士論文
「ケア学への序章―看護を基盤とする社会形成への展望―」

柴田 恵子さん

アドミニストレーション博士
平成12年度に開設されたアドミニストレーション研究科博士後期課程から、この3月、初めての博士が誕生しました。

アドミニストレーション
研究科博士第1号

サークル活動も頑張っています。

全国大学軟式野球選手権大会に2年ぶり出場！

軟式野球部キャプテン 松岡信幸さん（総合管理学部3年）

野球部は現在十数名で活動しています。

みんな野球が好きで集まった仲間で仲がいい野球部です。昨年は、春季・秋季南九州地区大学軟式野球リーグ戦で優勝し、3連覇を果たしました。同年夏には、千葉で行われた、全国大学軟式野球選手権大会に2年ぶりに出場しました。10人というギリギリのメンバーでスタートし、けがをしたら棄権しかねないというチーム状況の中で挑んだ春季リーグ戦で『全員一丸』で掴んだ全国大会でした。初戦の南関東地区代表の産能大学に1対3で惜敗しましたが、熊本県立大のエース後藤健作の2ケタ奪三振をはじめ、一致団結したチームワークは、「熊本県立大学ここにあり」と示すことができたと思います。試合に負けたから終わりではなく、敗因を調べ、他大学から吸収できるものを自分たちの力にすることが、チーム全員に課せられたのですが、チーム全員この敗戦を土台として大きくなりました。その結果、秋季リーグ戦で連覇を果たし、滋賀県で行われた西日本大学軟式野球選手権大会では、全国大会3位の関西福祉科学大学を破っての3位を勝ち取ることができました。

全国大会の敗戦がチームを変えさせたからこそだと思います。また、春季リーグ戦MVPに後藤健作、秋季リーグ戦MVPに松岡信幸が選出され、南九州選抜として、松岡信幸、後藤健作、加藤正臣、久保宏樹の4名が選出されました。現在、新チームで2年連続全日本大会に出場し、そこで勝つことを目指して練習しています。今後の野球部の活躍に期待しててください。



本学では、学生の視点で、教育を充実させる取り組みを行っています。

1 学生による授業評価アンケートの実施

本学では、これまで希望する教員だけで行ってきた学生による授業評価アンケートを、今年度後期からは、全授業（但し、非講義形式の演習、実験等を除く）を対象として実施することとしました。

12月から2月にかけてアンケートを実施し、3月末を目標に結果を集計中です。集計結果は、授業の質の向上のために活用するとともに公開する予定です。



2 学生と学長の懇談会開催

昨年12月、本学学生と学長の初めての懇談会を開催しました。

菅野学長からは、現在本学が推進している「教育」と「地域」を重視した「改革方策」の取り組み状況について説明しました。

1, 2年生からは、「語学は2年次以降も週2コマ実施してほしい」、「授業の質を上げるために、授業の第三者評価を導入してほしい」など授業について、4年生からは、「就職活動では、コミュニケーション能力や協調性が求められた」、「企業分析を行う企業研究講座を設けてほしい。就職活動にも役立つと思う」等々、多くの意見が出されました。本学では今後も、定期的に懇談会を開催し、学生の意見も参考に、教育の充実に努めていくことにしています。



大学院環境共生学研究科修士課程を新設

地球と共に、地球を友に

平成11年4月に生活科学部から改組された環境共生学部が平成15年4月から修士課程を開設します。環境共生学部の生態・環境資源学専攻、居住環境学専攻、食・健康環境学専攻の3専攻を母体として、発展型環境共生学領域と複合型環境共生学領域の2領域において教育研究を行います。

環境共生学研究科とは

有史以来、人類は自然と共生して生きてきました。しかし産業革命以後、エネルギーの大量消費、人口の爆発的増加などにより、自然とのバランスを崩しつつあります。環境汚染物質による公害や生態系破壊といったさまざまな問題は、人類の利益を優先し、自然をないがしろにしたことが原因と言えるのではないのでしょうか。

とはいえ、人類の生活を原始時代に戻すことはできません。いま必要なのは、「現在の知識を生かした、自然と人間活動の共生」であることには言ってもよいでしょう。自然と人間が共生するためには、より総合的で専門性の高い教育研究が不可欠です。

熊本県立大学は、各分野の専門性を追求し、社会のニーズに対応した教育研究を行うために環境共生学研究科を開設します。

設置の目的

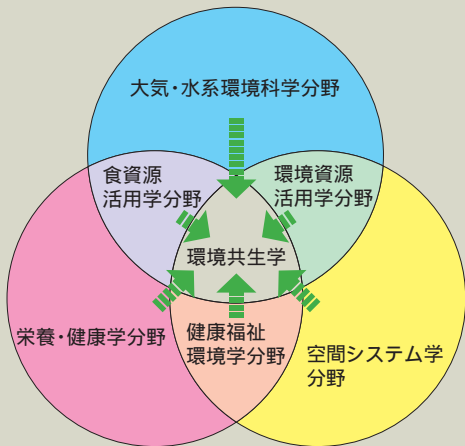
平成11年度に発足した環境共生学部においては、環境共生に関わる諸問題を総合的に捉え、人間活動を支える場としての豊かな

な自然を保全しつつ持続的に利用し、地域の快速で健康な生活を確保する方策、即ち自然環境と人間活動との共生の方策を追求し、地域の発展と人間福祉の向上を目指すことを理念としました。この理念の有機的な実現を図るため、構成は1学科制を採用し、次の3専攻としました。

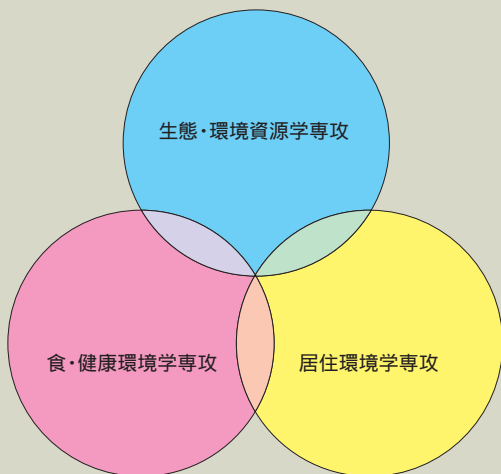
- (1) 生態系の仕組みの解明や環境の保全と健康環境学専攻
- (2) 人と自然にやさしい居住環境や地域文化に根ざした安全で健康な居住空間について学ぶ居住環境学専攻
- (3) 環境と地域を考えた食環境や健康増進と予防を目指す健康環境について学ぶ食・健康環境学専攻

環境共生学研究科は、学部での各専攻を母体として、さらに展開を目指す発展型領域(発展型環境共生学領域)の3分野、即ち大気・水系環境科学分野、空間システム学分野、栄養・健康学分野と、学部の各専攻を基礎として総合化を目指す複合型領域(複合型環境共生学領域)の3分野、即ち環境資源活用学分野、健康福祉環境学分野、食資源活用学分野、とに分けています。図に示すように、6つの研究分野を設定し相互関係を重視しながら「環境共生学」の確立を目指すものとします。

環境共生学研究科概念図



環境共生学研究科



環境共生学部

1 学部を基礎に、総合・発展させた教育研究

自然と人間活動との共生の方策を追求し、地域の発展と人間福祉の向上を目的として、平成11年度に発足した環境共生学部の理念を継承し、本研究科では、さらに総合的、かつ高度な展開を図った教育研究を行います。

2 フィールドを重視した教育研究

熊本県は、阿蘇、天草など豊かな自然環境が残る一方で、環境破壊の恐ろしさを体験した水俣や、近年その環境悪化が問題となっている有明海など、環境共生型社会を考える上での多くのフィールドがあります。地域社会の発展と環境共生型社会の創造に積極的に関与、貢献してまいります。

3 実践的能力を育成するカリキュラム

近年の科学技術の急速な発展と社会環境の激変に伴う人間生活に関わる諸問題に対して迅速に対応できるように、基礎的研究のみでなく、英語読解、ディベート、対話方式などの演習を配置し、実践的能力を育成します。

4 社会人を歓迎します

環境共生に関わる高度な知識は、現在、企業や自治体の第一線で活躍する社会人にも求められます。社会人選抜制度や夜間のみ受講でも学位取得が可能な昼夜開講制を実施し、社会人の入学を歓迎します。

5 充実した研究設備

専門性の高い教育研究を進めるために、環境制御型走査電子顕微鏡、精密分析機器、ガラス温室、構造実験室、人工気候室など、高度な設備・機器を充実させています。

研究科長からのコメント



大和田 紘一

平成15年4月から
環境共生学部長・環境共生学
研究科長に就任予定

環境共生学部は平成11年4月に、豊かな自然環境を保全し、その持続的な利用と、人間活動の面からの快適で健康な生活の確保の二つの方向からのアプローチを通じて私たちと自然とが共生していくための方策を研究し、若者達に教育していくことを目指して設置されました。第一期入学の学生が卒業を迎える平成15年に、熊本県をはじめ関係の方々の努力により、4月から環境共生学研究科修士課程が発足することになりました。この研究科においては学部の3専攻をさらに密接な関係でつなぎながら発展させるために、2領域6分野の研究グループが発足します。この研究科においては、

- (1) 環境共生に関する専門的・学際的知識を有する高度専門職業人の育成
- (2) 公的研究機関や企業の研究開発部門で活躍の出来る人材の養成
- (3) 企業や自治体の第一線で活躍する社会人が、自らの専門分野を再学習することにより、より高度な人材に養成する

などを目指しています。特に社会人のためには夜間の授業も開講し、働きながらスムーズに単位を取得できるよう心がけています。自然と環境との調和あるいは共生について研究をしたい若者や社会人の皆さんを待っています。

編纂物としての万葉集の解読

平安時代半ばから研究が積み重ねられてきた万葉集。やり残されていることはまだまだあります。従来の研究は漢字ばかりで書かれた一首一首の歌をいかに訓み解くかというところに主眼がおかれていたのですが、私はその成果は尊重しつつも、編纂された書物としていかに読むべきかということも考えるようにしています。たとえば、単独では恋の歌としか読めないものが、歌群として前後の歌とともに捉えなおすと七夕の夜に繰り広げられる牽牛・織女の逢会の一齣を表すことになるなど、編者の意図を理解することによって作品世界が一挙に広がりをもってくるのです。

しかし、それは現代人の感覚で捉えてはならず、あくまでも古代人の思考体系や世界観を踏まえたものでなくてはなりません。原文の漢字表記ひとつにも表記者の意図が込められているわけで、それを探るためには当時日本で受容されていた漢籍の文脈も考慮する必要があります。また、研究者の関心が向きがちな難解な語句に比べ、現代語と形の同じ語句の理解は充分でなく、この面での分析も私の主要な研究テーマです。それにしても千二百年以上も前のことゆえ、文献資料からの解明には限界があります。そこで作品の舞台に赴き、歌人の見た風景を追体験することによって手がかりを得ることも欠かせません。研究のテーマ・方法は多岐にわたるものの、すべては古代を再現するための営みなのです。



山崎 健司 助教授
(古代日本文学)



環境共生学部

建築物の安全性と環境を考える

私はハイブリッド構造の耐震性能に関する研究をしており、ハイブリッド構造とは、異なる材料、部材あるいは骨組を組み合わせた構造のことを言います。各種材料には長所と短所があり、地震や台風等の自然災害を受けても安全な建築物を造るためには、長所を生かして短所を補つ材料同士を組み合わせる工夫が必要となります。また、現在、建築廃棄物は、全産業廃棄物に占める割合が多く、尚且つ、日本のCO₂排出量の1/3が建築関連であることから、建築物による環境負荷も考慮しなければなりません。

木造建築は、1995年の兵庫県南部地震で、多くの被害を受けました。木材は、引張りや圧縮には強いのですが、地震や台風による水平方向の力に抵抗する能力があまりありません。その水平方向力を鋼板で抵抗できれば、より安全な木造建築物を造れると考え、木・鋼ハイブリッド耐力壁の構造性能を実験的に研究しております。

木材は自然素材であるため、環境にやさしい材料として認められております。一方、鋼材は人工的な材料ですが、建築材料、特に構造材料の中では最も廃棄物量が少なく、再利用の高い材料です。

木と鋼の組み合わせにより、耐震性能が高く、環境への負荷が少ない建築物を造るために、これからも研究を進めていきたいと思っております。



実験後の試験体と実験結果

李 麗 講師
(建築構造・材料学)



数える

今空間統計学、統計物理学に興味をもっています。

普通の三畳間に(自由に)畳を敷く方法は全部で3通りあります。6畳なら11通り、8畳なら36通り、15畳なら11183通りあります。

図1は無作為に選んだ1990畳の畳貼りです。畳のはり方はいくつあるでしょう？

図2は10×10=100個の格子点を巡る迷路です。迷路のどの地点からも左端の壁を通り抜ける道が一本だけ存在します。このような迷路はいくつあるでしょう？

どちが正解

3911222696776012972239561518
359338259546415835個ほどあります。畳と迷路の対応が見えるでしょうか。このような巨大な集合から偏りなく(等確率で)標本を抽出するうまい(高速な)方法があるのでしょうか？

続きは統計学研究室でござ。

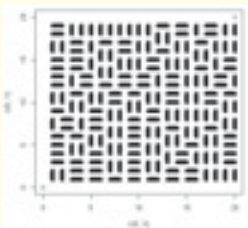


図1



図2



真広 泰造 講師
(数学、情報科学)



(多民族多文化にどっぷりと浸かる)

総合管理学部 助教授 高埜 健(国際関係論)

(2001年9月から2002年8月までマレーシアで留学研修)

「9.11」の余韻冷めやらぬ9月27日、私は、いささかの不安を胸にクアラルンプールに降り立った。ところが——実際にはテロの影響はそこかしこにあったのだが——何ら身の危険など感じることもなく、もっとはっきり言えば、拍子抜けするくらいに平和で、毎日ひたすら暑いマレーシアで、美味しく安く豊富な食べ物に囲まれながら、私は約一年間の在外研究を満喫することができた。

研究面では、アジア有数のシンクタンク、マレーシア戦略国際問題研究所(ISSIS)で、主として東アジアの政治・安全保障協力の問題に取り組んだ。同研究所主催の「アジア太平洋円卓会議」にも参加してアジアのみならず世界第一級の知性に触れることができたし、お世話になったISSIS日本研究センター所長のステイヴン・リヨン博士とは折に触れて議論を愉しんだ。生活面では、食をはじめとして、マレー、中国、インドの三主要民族文化の多様性を実感できたし、現地邦人社会の一端に加えていただき、環境問題の勉強会などにも参加した。



ISIS日本研究センター所長ステイヴン・リヨン博士(写真左)と

(海外研修を終えて)

文学部 助教授 徳永紀美子(アメリカ文学)

(2001年9月から2002年8月までアメリカで留学研修)



研修先のデューク大学があるノース・キャロライナ州に着いたのが、2001年の9月4日。その一週間後には、アメリカ経済の象徴である世界貿易センタービルがテロによって崩壊しました。

そのような不安な社会情勢のもとで留学生生活が始まりました。図書館には、私の研究対象であるアン・タイラー関係の資料が豊富に揃っているし、大学を通して多くの優れた研究者やポール・オースター、ドン・デリーロ、トム・ウルフなど一線で活躍中の現代作家にも直接会うことができました。中でも一番の収穫は、アン・タイラーとメールでやり取りをしてもらえるようになったことです。図書館で偶然に見つけた20年近く前の住所に思い切って手紙を出したのをきっかけに、憧れの作家と繋がりができるなんて、渡米前には想像もしないことでした。研究上の利点というよりも、私の人生への大きな贈物だと思います。



デューク大学のキャンパス

我が師

カフカをこよなく愛する元吉瑞枝先生

文学部日本語日本文学科4年
坂口 千佳子さん



写真では、前列左

カフカは、その作品の中にたくさんの色を持ち、読む度に色を変えて私たちを引き込みます。そして、先生もいんな顔を私たちに見せて下さいます。先生との出会いは衝撃的でした。その艶やかなお声(私たちはハスキーボイスと言っています)は、会話中つねに私たちを魅了します。先生はドイツ語圏の文学を研究されているので、ドイツ語が堪能です。その時のお声は、さらに私たちを酔わせ、カフカについて語る先生の表情とお声にも私たちは惚れ惚れしてしまいます。



文学部 教授 元吉瑞枝(20世紀のドイツ語圏文学)

た。多くの国の様々な文化が、先生の中にあります。興味を持ったことにはどんどん突き進んで行く、先生の若さは、そのことにもあらわれているように思えます。魅力的な年齢の重ね方は、私たちの元吉瑞枝先生にとっても憧れるのです。

熊本県立大学地域貢献研究事業(平成14年度)

地域振興支援研究(文化、自然、社会等の領域における地域振興の一助となる研究)

氏名	研究テーマ
田中 宏尚(文学部教授)	熊本県民の性格(人格)についての研究
弘谷多喜夫(文学部教授)	台湾と熊本の戦前・戦後における教育交流の歴史と今後の施策
難波美和子(文学部講師)	熊本県の昔話研究の現状と展望
篠原 亮太(環境共生学部教授)	阿蘇堆積土(リモナイト)焼結体の水処理への応用に関する研究
堤 裕昭(環境共生学部教授)	熊本有明地区の干潟におけるアサリの生産を支える一次生産システム
中島熙八郎(環境共生学部教授)	棚田を持つ農山村における生活環境に関する研究
荒木昭次郎(総合管理学部教授)	熊本県下の市町村における行政運営の効率化に関する調査研究
石橋 敏郎(総合管理学部教授)	熊本県における介護保険制度の実施状況とその課題について
米澤 和彦(総合管理学部教授)	過疎地域における交流人口のネットワーク化に関する研究

学術高度化研究(学術の高度化に寄与し、ひいては本県の発展に寄与し得る優れた着想を持つ基礎的研究等)

氏名	研究テーマ
重松三和子(環境共生学部助教授)	子供の遊びと環境
松崎 弘美(環境共生学部講師)	食品保存における乳酸菌の利用
松野 了二(総合管理学部教授)	E-Learningを用いた教育の技術面からの研究

設置者からの依頼研究(設置者である熊本県の各所属が持つ政策課題等の研究)

氏名	研究テーマ	依頼元
大和田統一(環境共生学部教授)	干潟の基礎生産及び環境浄化活性に関する研究	水産研究センター
篠原 亮太(環境共生学部教授)	合成洗剤の主成分であるLASの環境中残留に関する研究	環境保全課水保全対策室
松添 直隆(環境共生学部助教授)	熊本長ナスの果実品質(味覚成分・機能性成分)について	農業研究センター
張 代洲(環境共生学部助教授)	黄砂が大気中の浮遊粒子状物質(SPM)に与える影響について	保健環境科学研究所他
荒木昭次郎(総合管理学部教授)	NPO等との協働システムの構築に関する調査研究	企画課
立山 敏男(総合管理学部教授)	阿蘇地域におけるサイン(屋外広告物)のあり方	都市計画課景観整備室

科学研究費補助金による研究状況(平成14年度)

文部科学省

氏名	研究テーマ
有菌 幸司(環境共生学部教授)	水環境汚染評価のための新バイオマーカー
張 代洲(環境共生学部助教授)	西日本に飛来する黄砂粒子の変質程度と人為起源物質との関係
坪原 紳二(環境共生学部助教授)	オランダ環境共生型都市の近現代都市形成史に関する研究
山田 俊弘(環境共生学部講師)	熱帯性樹木の種子における保湿性とその実生の定着に関する影響
李 麗(環境共生学部講師)	木造建築構造用の木・鋼ハイブリッド耐力壁に関する実験的研究
辻原万規彦(環境共生学部講師)	戦前期の南洋群島における建築物にみられる室内環境調整手法と気候風土に関する研究
松崎 弘美(環境共生学部講師)	環境調和型バイオポリエステル生合成におけるポリエステル顆粒形成機構の解明
今里佳奈子(総合管理学部助教授)	居住循環システム構築による高齢者活性化の研究

日本学術振興会

氏名	研究テーマ
菅野 道廣(学長)	柑橘果皮に含まれるオーラプテン(auraptene)の免疫調節機能の解析
馬場 良二(文学部教授)	時間長、基本周波数、振幅が長母音の拍数知覚に果たす機能の解明
樋口 康夫(文学部教授)	16・17世紀イギリスの本草学(Herbal)と大陸との関連について
星乃 治彦(文学部教授)	戦間期ヨーロッパにおける危機の社会的・文化本位相:ヴァイマル・モデルネと現代
山田 俊(文学部助教授)	唐宋道教の心性思想研究
山崎 健司(文学部助教授)	古代日本文学における漢語の受容
大和田統一(環境共生学部教授)	内湾近低層における微生物生産に関する研究~隔離実験による微生物ループの検証~
堤 裕昭(環境共生学部教授)	有明海の水塊構造と海底生態系の変化とその原因
大岡 敏昭(環境共生学部教授)	日本の城下町都市における近近代の都市住宅に関する研究
松野 了二(総合管理学部教授)	教育用ソフトウェア作成支援のためのソフトウェア部品開発とその活用に関する研究

本学での研究状況

本学では、各種研究活動を行うにあたり、設置者である熊本県や文部科学省等からの支援を得ています。また、平成12年度からは外部資金の受け入れ体制を整え、民間企業等から寄付金を得ています。

外部資金による研究状況(平成14年度)

受託研究

委託者	研究担当者	研究テーマ
独立行政法人 食品総合研究所	菅野 道廣(学長)	健全な食生活構築のための食品の機能性及び安全性に関する総合研究(大豆成分の生体調節機能に対する食品の組み合わせ効果 - 唾液中 I g A の応答を指標とした解析)
玉名市役所	堤 裕昭(環境共生学部教授)	菊池川河口干潟におけるアサリ資源の動態調査
バイオレンジャーズ(株)	深津 和彦(環境共生学部教授)	複合微生物活用による浄化水でのバイオアッセイ
国立医薬品衛生研究所	有園 幸司(環境共生学部教授)	人についてのデータ解析とリスクの不確実性評価
(財)まもとテクノ産業財団	松崎 弘美(環境共生学部講師)	環境調和型バイオポリエステルを生合成に関する研究

教育研究奨励助寄附金

委託者	研究担当者	研究テーマ
ソルトサイエンス研究財団	大和田紘一(環境共生学部教授)	有明海、八代海における干潟微生物による環境浄化機能の解析
(株)関西総合環境センター	大和田紘一(環境共生学部教授)	水質、底質環境と生物(プランクトン・ベントス)の相関解析
(株)タクマ	古賀 実(環境共生学部教授)	有害物質の放電プラズマ分解処理に関する研究
(株)水環境科学研究所	篠原 亮太(環境共生学部教授)	海水及び河川水の電氣的浄化法に関する研究について
(株)ニチソウテック	篠原 亮太(環境共生学部教授)	海底汚染底質の改善に関する研究
有明工業(株)	堤 裕昭(環境共生学部教授)	熊本有明地区の干潟域に生息するアサリの生態と資源量の変動に関する研究
(財)九州環境管理協会	堤 裕昭(環境共生学部教授)	博多湾の環境改善
西日本技術開発(株)	堤 裕昭(環境共生学部教授)	緑川河口の生態系
リバーフロント整備センター	堤 裕昭(環境共生学部教授)	大山川の流量増加に伴う河川水質変化に関する研究
九州建設コンサルタント(株)	堤 裕昭(環境共生学部教授)	菊池川河口の生態系
次世代埋立システム研究会	深津 和彦(環境共生学部教授)	環境汚染微量物質が小生物に与える影響
(株)日本紙パルプ研究所	有園 幸司(環境共生学部教授)	水環境汚染評価のための新バイオマーカー
(株)みなまた環境テクノセンター	有園 幸司(環境共生学部教授)	バイオアッセイを用いた新規な環境リスク評価技術の開発
国土環境(株)	有園 幸司(環境共生学部教授)	イノムアッセイ法による化学物質測定に関する研究
(株)ジーンネット	有園 幸司(環境共生学部教授)	水環境評価のための新規DNAマイクロアレイチップの構築
(株)みなまた環境テクノセンター	有園 幸司(環境共生学部教授)	E L I S A の環境評価手法への適応(その2)
日本紙パルプ研究所	有園 幸司(環境共生学部教授)	水環境汚染評価のための新バイオマーカー
坂元醸造(株)	奥田 拓道(環境共生学部教授)	くろず及びくろずもろみ末の糖尿病に対する薬理作用
カネボウ(株)	鈴木 公(環境共生学部教授)	ラズベリーケトンが基礎代謝に及ぼす影響に関する研究
マリンバイオ(株)	松添 直隆(環境共生学部助教授)	養魚飼料に含まれるアスコルビン酸含量の迅速・簡便な分析法の確立
日本熱サイフォン(株)	松添 直隆(環境共生学部助教授)	熱サイフォンが植物の生育や発育に与える影響
住友林業システム住宅工業(株) 筑波研究所	大橋 好光(環境共生学部助教授)	木構造に関する新設計法の研究
ミサワホーム株式会社	大橋 好光(環境共生学部助教授)	木質住宅の耐震性能評価
味の素(株) 医薬研究所	南 久則(環境共生学部助教授)	食物アレルギーの体内侵入に関する基礎研究
味の素(株) 医薬研究所	南 久則(環境共生学部助教授)	インドメタシンによる腸管障害に対する成分栄養剤の効果に関する研究
コンビ(株)	南 久則(環境共生学部助教授)	小腸培養細胞を用いた乳酸菌菌体の腸管通過に関する研究
神村鉄工(株)	辻原万規彦(環境共生学部講師)	環境に配慮したアーケードの総合的な評価と改善策の提案に関する調査研究
ネスレ科学振興会	松崎 弘美(環境共生学部講師)	抗菌性乳酸菌の探索と食品製造における微生物制御
(財)旗影会	赤星亜朱香(環境共生学部助手)	共役不飽和脂肪酸の体脂肪低減効果に関する研究
(株)キリンアスプロ	赤星亜朱香(環境共生学部助手)	植物抽出物の生理活性について
熊本ソフトウェア(株)	市村憲治(総合管理学部教授) 松野了二(総合管理学部教授)	高齢者用ブラウザならび音声制御ブラウザの研究・開発

就職センター

就職情報提供と、きめ細かな就職指導や親身な就職相談を行っています。



学生の就職情報収集の場として利用できるのが、就職センターです。県内外の企業からの求人票や就職情報誌、業種別に分類した約三千社の企業ファイル、先輩の受験報告書、企業別卒業生名簿など、就職に関するいろいろな資料が揃っています。

ここでは就職に関する資料や書籍などの閲覧できるほか、書籍やビデオテープの貸出をしています。

また、二人の専任の就職アドバイザーが常駐して、学生の就職相談や指導にあたっています。

アルバイトの求人も取り扱っています。なお、1年生へのアルバイトの紹介は10月以降となっています。



就職アドバイザー
近藤 俊哉



就職アドバイザー
前田 勝

就職活動の
主役はもちろん
「あなた自身」です

就職センター

相談時間：月曜日～金曜日

午前10時から午後5時まで
(昼休みを除く)

時間外でも電子メールや相談メモで相談を受け付けています。

インターンシップ(職業体験実習)

インターンシップとは、在学中に専攻分野や興味のある業種の民間企業・自治体等の職場で実際に仕事を行い、将来の進路決定の参考とするために行うものです。2年生から参加できます。今年度は夏休みと春休みの期間に約130名が参加しました。そのうちの1人、運輸関連企業でインターンシップを体験した渡辺由美さん(文学部英語英米文学科2年)のレポートを紹介します。



インターンシップを体験して

インターンシップで学んだことは数多い。まず、挨拶と時間の厳守。社員の方々同士の挨拶や朝のサーブス呼称が大きな声できちんとされており、当たり前のことをきちんとするこの大切さを感じた。初日の最初に、係長から「明るいという印象は声の大きさと決まる」と言われ、この5日間大きな声で挨拶やサーブス呼称をするよう心がけていた。また、誰もが朝の始業時間に余裕を持って出社し、遅刻する人はだれ一人いなかったことが、学生とは大きく違う点だと思った。

次に、私たちの生活の裏で様々な人の努力があることが少しだけわかった。私は主に届出資料作成をお手伝いさせてもらった。この作業から、ダイヤや系統を少し変えるだけでも莫大な資料が必要ということがわかった。その他、区画設定をして初めて時刻表ができること、お客様の苦情でダイヤの変更を要求されても、様々な事柄が複雑に関係し合っているのが簡単には変更できないこと、普通は同じバスで一日走るが、場合に依ってはバス

を変えることで人件費を節約するという努力をしていることなど、次々に新しい知識を得ることができた。実際に体を動かす仕事もさせてもらった。

今回のインターンシップで、現在の学生生活を見直さずにはいられなかった。日常生活の基本である挨拶や時間の厳守が、実は社会の中で求められており、出来て当たり前であること。果たして自分はできているであろうか。インターンシップでこんなに基本的なものを再確認する事になるとは思いもしなかった。これをきっかけに学生生活を徹底しなければいけないと感じた。何も分からない学生が入ってきたことで仕事の手を休めて一から教えてくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を無駄にすることなく、これからの学生生活を送っていききたい。

message for you 卒業生からのメッセージ



上妻 文さん
平成15年3月卒業 文学部・英語英米文学科)
(株)日本航空 入社

私の大学生活は多くの人との出会いの日々でした。サークル活動、アルバイト、短期留学、旅行、専門学校などを経験し、充実した学生生活を送ることができました。特に大学に通いながら専門学校とアルバイトとサークル活動をしていた時期は大変でした。しかし、客室乗務員になりたいという目標と、何より先輩や仲間、家族の支えがあったからこそ乗り越えることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

就職活動で大変役に立ったのは、アルバイトの経験です。多くのお客様と接することで、敬語の使い方を身につけることができました。敬語、丁寧な話し方というものは友人や家族との会話ではほとんど使わないでしょう。しかし、就職活動においては大変ななってきます。また社会人になってからは必須です。ですから多くの人、特に目上の方と接する機会をもつて下さい。敬語に慣れることで、いざという時に自然と敬語が出てくるようになると思います。

学生時代は何でもできる時期だと思っています。自分がやりたいと思ったことには積極的に挑戦し、多くのことを経験して下さい。そして感性を磨き、悔いのない学生生活を送って下さい。

就職支援

就職までのタイムスケジュール

1年

4月 入学式後のオリエンテーション
将来の進路を意識した、今後のキャンパスライフの過ごし方を説明します。

7月 1年生向け就職ガイダンス
適職診断などを行い、職業観を育てていきます。

2年

4月 就職ガイダンス
就職に対する意識を高めるために、就職講演会を実施します。

7月 2年生向け就職ガイダンス
適職診断、社会常識チェックなどを行い、就職に対する意識を高めていきます。

公務員ガイダンス
公務員を目指す2年生へ、公務員の種類と勉強方法について説明します。

8月 インターンシップ
民間企業や地方自治体で実際に仕事を体験し、将来の進路を考えるのに役立ちます。

3年

4月 就職ガイダンス
オリエンテーション時に、就職講演会を実施し、就職とは何か、自分の進路を実現するためには何をすればよいかが説明します。

学部(専攻)単位による就職ガイダンス(～3月まで随時実施)
学科または専攻別に、OB、OGなどと呼んでの就職懇談会を実施します。

7月 就職ガイダンス
就職活動するためには夏休みに何をすればよいのか、具体的に説明します。また、自分がどの職業に適しているか「適職診断プログラム」を受けることができます。

公務員ガイダンス
公務員を目指す3年生へ、公務員の種類と勉強方法について解説します。

8月 インターンシップ
民間企業や地方自治体で実際に仕事を体験し、将来の進路を考えるのに役立ちます。

10月 就職ガイダンス
残りの学生生活の過ごし方に力点を置き、就職活動の自覚と心構えや就職活動の進め方について説明します。

10月～ 就職準備セミナー(Ⅰ～Ⅶ)
就職活動を行うための準備として、自己分析、業種・業界研究、筆記試験対策、エントリーシート対策、面接・マナー対策などについて説明します。

11月 企業、公務員ガイダンス
企業や地方自治体に就職した卒業生、企業や公務員に内定(合格)した4年生との就職懇談会を実施して、仕事の内容や受験対策を説明します。

2月 就職セミナー
就職活動の直前対策として、1週間程度集中して就職セミナーを実施します。就職セミナーの中では、作文対策、一般教養試験対策、面接・マナー対策、筆記試験対策(SPI模擬試験)、時事問題対策、就職内定者との懇談会、卒業生との懇談会、自己PR・志望動機対策などを行います。また、県内で活躍している企業の人事担当者を招いて、ブース形式による学内企業説明会も実施します。さらに、福岡等で開催される合同企業説明会にも大学からバスを運行します。

4年

4月 就職ガイダンス
公務員・教員採用説明会
各人事委員会、教育委員会の担当者を招き、採用選考試験の概要を確認します。

企業説明会(セミナー)
各企業の採用担当者を招き、企業・業界の実態や採用試験の概要について説明します。

7月 就職ガイダンス
未内定の4年生に今後の就職活動の進め方や求人状況について説明します。また、就職に関する個別指導を行います。

9月 就職ガイダンス
未内定の4年生に今後の就職活動の進め方や求人状況について説明します。

就職の支援や資格の取得のために次の講座・セミナー等を実施しています。興味のある方は積極的に参加してください。また後援会からも各種講座の開催や、助成等、学生のために幅広い就職支援がなされています。

インターンシップ

企業や自治体の研修プログラムにもとづいて、一定の期間、企業や自治体で実務研修を実施しています。毎年100人を超える学生が参加しています。

公務員試験対策講座

ビデオ教材や教員による直接指導により、国家公務員や地方公務員試験合格に向けて徹底指導します。公務員合格者は、ほとんどがこの講座を受講しています。

システム・アドミニストレータ講座

大学外から講師も招き国家試験合格に向け、エンドユーザ部門の情報化リーダーを養成しています。

ファイナンシャル・プランナー養成講座

個人資産の適切な運用の提案といった総合的なコンサルティングを行う資格取得に向けて実施しています。

TOEIC・TOEFL

国際ビジネスで必要とされる英語コミュニケーション能力や留学に必要な英語能力判定テストのための指導を行います。また、学内で団体試験を実施しています。

宅地建物取引主任者講座

不動産取引に関する専門的知識を持つ者として金融・不動産業界などの企業で有力な資格取得に向けて実施しています。

簿記検定講座

企業の財務状況を把握し帳簿管理を行う、あらゆる企業で評価の高い資格取得に向けて実施しています。

就職ガイダンス(民間・公務員)

業界セミナー、個別企業による説明会、卒業生との交流会など年間を通じて多彩なガイダンスを開催します。

就職準備セミナー(Ⅰ～Ⅶ)

就職活動を行うための準備として、テーマ別に現状に即した実践的・具体的なセミナーを開催します。

各種資格取得講座は、学外で実施の場合があります。

メープルリーブス

総合管理学部総合管理学科3年
渡邊 晶子さん

メープルリーブスはボランティア活動を中心として活動しています。活動日はボランティアの要望がある日なので、はっきり決まっていません。自分のスケジュールの空いている日に活動できるので、他のサークルと掛け持ちでやっている人もいます。

現在は近くの小学校に通っている障害を持つ女の子のお迎えボランティアを、曜日ごとにメンバーで交替しながらやっています。その他にも市内で行われる障害者の方たちの運動会や、夏祭りのバザーの手伝いなど、自分たちも楽しみながらボランティアをやっています。活動を通して、大学の中だけでは出会えないような様々な人との出会いがあり、貴重な経験ができると思います。また、毎年白亜祭ではみんなでお店を出してバザーを出店をしています。おかげさまで毎回なかなかの好評をいただいています。今後は、手話や点字を



覚えたり、様々な企画を練ってレクリエーションを楽しんだり、個性的で、部員の手作りのなもつと幅広い活動をやっています。

「ボランティアはやってみたいけど、何をしたらいいかわからない…」そんな方はぜひ一度メープルリーブスの部会に遊びに来て下さい。

サッカー部

環境共生学部環境共生学科
居住環境学専攻2年
主将 永田 大生さん

県大サッカー部は昨年沖縄で行われた2部昇格を決める第17回九州各県サッカーリーグ決勝大会において2位に入り今期からの2部昇格を決めました。現在は4月に行われる九州大学サッカーリーグにおいて2部残留を目標に日々がんばっています。

現在、部員は21名、マネージャー4名です。練習場所は第2グラウンドで火・水・金・土の週4回で2時間程度行い、土日のどちらかには色々なチームと練習試合を組ませてもらっています。私たちは部員同士の対話を重要としています。対話によってチームが向上していくところが真に強いチームになると考えています。それが去年の良い結果にもつながっているのだと思っています。

また、卒業生の先輩方もサッカー部にとっても愛着をもってください。おりの先輩方の応援も非常に心強いものになって



います。県大サッカー部は勝つことも大切になっていますが、やはりサッカーを楽しむ部であることが大切だと思っています。今度の大会で2部残留を決めることによって県大のサークル活動を少しでも盛り上げていけたらなと思っています。

やっぱりサッカーはたのしかよ。本当にたのしか！

第38回白亜祭

第39回白亜祭実行委員会委員長
菊竹 悠介さん（総合管理学部2年）

平成14年度の県立大学学園祭「白亜祭」は、例年通り11月の第2週末に開催され、駐車場が満杯になるという大成功のうちに幕を閉じました。

1日目は、毎年恒例で本学の名物企画「ミス・ミスター白亜コンテスト」、新企画のカラオケ大会「K-1グランプリ」。

2日目は大喰い大会、サークル対抗の運動会、そして「アンジャッシュ」によるお笑いライブ等が行われました。

白亜祭は近隣の住民の方にもご参加いただき、子供から高齢の方まで楽しめる「地域密着型」の学園祭を目標にしています。本年も本学学生が、色々な催し物を用意して白亜祭の成功を目指し、頑張っています。皆様の御来場を心よりお待ちしております。



熊本県立大学後援会からのたより

後援会とは？

熊本女子大学時代の昭和50年4月に、本学在学生の父母またはこれに準ずる者を会員として組織され、大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

また、後援会の事業費は、会員からの会費によって賄われています。

後援会の主な事業

就職対策事業

厳しい就職状況に対応するため、各種試験対策講座及び各種資格取得講座を実施しています。また、学生の就職に対する意識の啓発及び高揚を図るために就職活動の支援を行っています。後援会ではP12の就職支援のための各種講座を開催、助成しています。

学生生活支援事業

学生のキャンパスライフを充実したものとするため、サークル活動の助成、OA機器及び図書を整備を行っています。

サークル活動等助成

サークル活動費助成
白亜祭（学園祭）助成
全国大会等出場助成
学生生活支援講演会

施設設備

コピー機及びFAX
学生貸与用パソコン
サークル貸与用備品

図書整備

図書、CD-ROM、
DVD、LD、
ビデオの整備

国際化推進事業

本学と姉妹提携している韓国祥明大^{さんみょう}学校、モンタナ州立大学ポーズマン校及びピリングス校との交流支援、その他学生の海外留学や海外研修に対する助成を行っています。

教育研究推進事業

学部や研究室で実施するフィールドワーク（学外で行う調査・研究のこと）や学生と教員が共同自主的に行う研究等に対する助成を行っています。

現地教育学習バス借り上げ助成

共同自主研究助成

学会開催助成

会員のみなさまへ

例年、6月上旬の土曜日に、本学において熊本県立大学後援会総会を開催し、前年度の事業報告及び当年度の事業計画について会員である皆様に審議していただきます。

平成14年度は、総会終了後、各学部に分かれ、学部の活動や就職をテーマとした教員と後援会会員による懇談会を初めて実施しました。なお、平成15年度の総会開催については5月頃、ハガキにて御案内します。

学生のみなさまへ

熊本県立大学後援会の事務局は、管理棟2階事務局内にあります。後援会事業についてのお尋ね等ありましたらお気軽にお越し下さい。



祥明大學校短期研修団報告

さんみよん
 平成14年9月1日(日)から9月10日(火)、祥明大學校へ短期研修団を派遣しました。宮園博光助教授(総合管理学部)の引率で、14人が参加し、ホームステイや百済文化探訪を通して韓国への理解を深めました。

国際交流とは何か

前田 絵梨子さん
 (環境共生学部4年)

この祥明大學校短期研修は、私にとって初めての海外旅行であり、行く前はとても不安でした。同時に、初めて他の国の文化に触れるということでも楽しみでもありました。10日間という短い間では

ありましたが、実際に韓国に行き、ホームステイしたこと、私がかつて知っていた韓国よりももっと多くのことを知ることができ、国際交流とは何かということを実際に考えさせられました。

インチョン空港に到着し、バスで移動している間、外の風景を見ると、日本とあんまり変わらないという印象がありました。しかし、ホームステイ先の女の子の家と一緒に生活したりしているうちに、日本との違いや韓国という国について少し分かってきました。韓国の家では、キムチ専用の冷蔵庫があったり、トイレやお風呂の使い方も少し違いました。食べ物については、毎食、キムチが出てきたり、とにかく辛かったです。少し不便を感じたことはありましたが、実際に他の国へ行き、その国の文化を知るには、ホームステイがとても効果的だと思います。現地の人たちと同じ生活をし、自分達の国についてお互い向き合ってみると、いろんな発見があつて、とてもおもしろいです。

私が韓国に行つて一番印象に残っていることは、韓国の学生と一緒に独立記念館に行つたことです。日本が昔、韓国に対してひどいことをしていた事実をまざまざと見せられ、とても胸が痛くなり、複雑な気持ちになりました。私は日本人であることを強く感じ、韓国の友達に対して罪悪感さえ感じました。後から、私のホームステイ先の女の子に日本が韓国にひどいことをしてきた歴史についてどう思うか聞いてみました。すると、意外にも過去のことであり、韓国の若者はあまり気にしていないという返事でした。しかし、その歴史を過去のものとして絶対に風化させては行かないと思います。国際交流とは単にその国の文化を知るだけでなく、その国がどんな歴史をたどり今にいたつてなのか、そして日本がその国とどういうふうに関わつてきたかを知り、本音でその国の人達と議論しあふことだと思ふのです。韓国は、本当に日本と近い国です。日本と韓国の関係がさらによい方向に進んでいくよう、私達若者がしっかりと土台を作つていかなければならないと思います。

耳寄り情報

留学生による外国語(韓国語、中国語)講座が実施されています。留学生とも友達になれますので、興味のある人はぜひ参加して下さい。詳しくは国際倶楽部(研究棟1階)までお問い合わせ下さい。

外国人留学生との交流会

平成14年12月9日(月)午後6時から第2学生会館で「外国人留学生との交流会」が開催され、約50名(うち外国人留学生11名)の参加者たちが、互いに自分の国のことを話し合い、親睦を深めました。

ホストファミリーをしてみませんか?

本学では、外国からの学生を受け入れてくださるホストファミリーを募集しています。今年は5月にアメリカから、7月に韓国からの短期研修受入を予定しています。期間は10日程度です。応募して下さいの方は、韓国及び米国への短期研修や留学に際して、特典を受けられます。詳しくは学生課までお尋ねください。

モンタナ州立大学ピリングス校短期研修団来日

平成14年5月12日(日)から22日(水)までの11日間、モンタナ州立大学ピリングス校ビジネス学部の9名の学生及びマリー・マクナリー教授と草間真理国際交流担当部長が来日し、日本語学習をはじめとする様々な授業や水俣でのフィールドワーク等の学外研修に参加しました。



期間中、長陽村の中学校や熊本の企業を訪問する忙しいスケジュールの中で、長崎の原爆祈念館を全員で訪れるなど、意義深い滞在となりました。

ホストファミリーや、本学生との交流を楽しみ、熊本での思い出を胸に帰国しました。

地域貢献の取り組み

授業公開講座

本学では、県民の方々に對して、大学の正規の授業を公開しています。半年または1年間継続して、学生と一緒に受講できます。受講生の募集は、年に2回(8月と2月)行います。
・受講料(1科目につき)
半年間 5,000円
1年間 10,000円

地域講演会

本学の教員を県内の市町村に派遣し、地域住民の方々に對象に身近なテーマについて講演を行っています。
平成14年度開催状況
第1回 人吉市
平成14年10月10日(木)
講師/環境共生学部 教授 鈴木 公

テーマ/
「生活習慣病予防のための食事と運動」
第2回 三和町
平成15年2月23日
講師/総合管理学部 教授 石橋敏郎

テーマ/
「21世紀は生涯学習とボランティアの時代」

公開講演会

国内外の著名な専門家や研究者を講師として招聘し、本学の教育に關連したテーマで講演会を行っています。講演会は県民の方々にも公開しています。
平成14年度開催状況
第1回 平成14年10月5日
(環境フォーラムの環として講師を招聘)
講師/大阪大学大学院 教授 西原 力



者を講師として招聘し、本学の教育に關連したテーマで講演会を行っています。講演会は県民の方々にも公開しています。
平成14年度開催状況
第1回 平成14年10月5日
(環境フォーラムの環として講師を招聘)
講師/大阪大学大学院 教授 西原 力



テーマ/
「化学物質とつまく付き合つには」
第2回 平成14年10月25日
講師/独立行政法人農業技術研究機構 動物衛生研究所研究管理官 白井淳資
テーマ/
「海外の動物伝染病(あまり知られていない怖い病気)」

組織整備

「熊本県立大学地域交流センター」の設置を通じて、地域への貢献事業を行っています。
本学では、地域交流センターを通じて、地域への貢献事業を行っています。
皆様の知的好奇心を満たすような様々な事業を展開していきますので、積極的にご利用ください。



地域交流センターの主な事業

- (1) 行政との連携に關すること 地域貢献研究、市町村受託調査等)
- (2) 企業等との連携に關すること 受託研究、教育研究奨励寄附金等)
- (3) 地域住民等との連携に關すること 授業公開講座、公開講演会等)
- (4) 小中高校との連携に關すること 出前講座、オープンキャンパス等)
- (5) 大学間の連携に關すること
- (6) 地域交流に關する情報の収集及び情報の提供 ホームページ、大学案内等)

〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
熊本県立大学内「熊本県立大学地域交流センター」
TEL096-383-2929 FAX096-384-6765
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/> E-mail:souki@pu-kumamoto.ac.jp

附属図書館からのお知らせ

最近配架しました図書等をご案内します。
紙面の關係で一部しか紹介できませんが、他にもたくさん配架しています。大いにご利用ください。

専門図書

- ・遺伝子の分子生物学 おきているか
- ・食の世界にいま何が
- ・バイオのための基礎微生物学
- ・三葉虫の謎…進化の目撃者」の驚くべき生態
- ・自我が揺らぐとき…脳はいかにして自己を創りたすのか
- ・私らしい生き方を求めて…女性と生涯学習
- ・見えざる敵ウイルス…その自然誌
- ・子ども虐待問題百科事典

文藝関係

- ・34丁目の奇跡(ヴァレンタイン・デイヴィス)
- ・津田梅子を支えた人びと (飯野正子ほか)
- ・とびきり聡明な女たち…英知の言葉100年(アンジェラ・B・フリーマン)
- ・海辺のカフカ(村上春樹)
- ・半落ち(横山秀夫)
- ・冬の猿
- ・(アドトワニス・ブロンタン)

ビデオテープ

- ・島原・天草の諸道/北海道の諸道
- ・時空の旅人・司馬遼太郎…プロローグ
- ・高等教育のバリアフリーを目指して

図書館利用時の注意事項

入館時には学生証(又は図書館利用証)を入館ゲート前の機器(バーコードリーダー)でスキャン(読み取らせること)してください。学生証は常に携帯してください。
館内には飲食物の持ち込みは禁止です。
視聴覚資料(ビデオテープ等)は館外貸出できません。
貸出図書については返却期限を厳守してください。

人事

名誉教授称号授与

平成14年6月26日授与

重松 隆矣氏(元文学部教授)



SCHEDULE (2003.4-2003.9)

月	日	内 容
4月	月 内	外国人留学生との交流会
	上 旬	日本育英会奨学金説明会
	上 旬	4年次就職ガイダンス
	中 旬	公務員試験説明会
	中 旬	2～4年次授業料納付書送付
	下 旬	1年次授業料納付書配布
	3日	4年次健康診断(～7日)
	4日	授業公開講座開講式
	6日	入学式(於:県立劇場)
	8日	新入生オリエンテーション(・9日)
	10日	在学生オリエンテーション
	11日	授業開始
	30日	授業料第1期分納期限
	5月	中 旬
下 旬		モンタナ州立大学ピリングス校 短期学生研修団受入(9日間)
6月	上 旬	インターンシップ説明会
	上 旬	後援会評議員会及び総会
7月	上 旬	韓国・祥明大 短期学生研修団受入れ (～7月中旬までの10日間)
	上 旬	1、2、3年次就職プレガイダンス
	上 旬	3年次進路個人面談(～9月)
	中 旬	公務員ガイダンス(3年次以下)
	24日	前期試験(～8月6日)
8月	上 旬	オープンキャンパス
	上 旬	企業採用状況(追加・二次募集)調査
	7日	夏季休業(～9月30日)
	5日	授業公開講座受講者募集(後期) (～30日)
	下 旬	モンタナ州立大学へ短期留学生派遣 (1年間)
	下 旬	インターンシップ(5日間)
9月	中 旬	入学試験(大学院アドミニストレーション 研究科(博士前期課程:秋季))
	30日	授業料第2期分納期限

* 期日は変更となる可能性がありますので、学内掲示板により確認するか、担当課までお問い合わせ下さい。

外国語教育センターからのお知らせ

自由講座の受講者を募集します！

外国語教育センターでは、本学学生の外国語コミュニケーション力の向上を図るため、正規の講義以外に自由講座を開講しており、また、県民の方々へ外国語学習の機会を提供するため、一部を社会人にも公開しています。

授業で習ったことをさらに深めたい方、外国事情にも興味のある方等、どなたでも受講することができます。

平成15年度外国教育センター自由講座 開講予定

	講 座 名	開講期間	時 間
1	第二言語修得論による英語学習	通年	火曜 3限
2	英語 Introduction to the Internet	前期	月曜 4限
3		後期	月曜 4限
4	自由講座 TOEIC対策(基礎コース)	通年	水曜 4限
5		通年	金曜 4限
6	英語 英検2級対策	前期	水曜 5限
7		後期	水曜 5限
8	(未定)	後期	月曜 4限
9	ドイツ語自由会話	通年	木曜 4限
10	フランス語自由会話	通年	火曜 5限
11	中国語自由会話	通年	金曜 4限

受講申込期間 前期：4月7日(月)～4月18日(金) 予定
後期：7月予定

受 講 料 無料

上記2・3以外の講座は授業公開講座として社会人の方の受講を認めております。但し、前期及び通年科目の社会人の方の募集は既に終了しました。また、社会人の方の場合、授業公開講座実施規定に基づいた受講料をお支払いいただく必要があります。

TOEICを受験しよう！

TOEIC(トイック Test of English for International Communication)は、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界基準のテストです。TOEICには、各団体が日程や場所を自由に設定して試験を行うことができる団体特別試験制度があり、外国語教育センターでは、この制度を利用して、年2回、学内でTOEIC IP(団体特別試験)を実施しています。

このTOEIC IP(団体特別試験)は、公開テストより安価に(公開テストの受験料は6,615円ですが、この団体特別試験は3,150円で受験することが出来ます)、そして場所も本学で受験することができますので、就職活動に活用したい人や、現在の英語力を測定したい人は、ぜひ受験してください。

平成15年度外国教育センターTOEIC IP実施予定

	試験実施日	試験場所	受験申込期間	受験料
第1回	6月28日(土)	学内	5月12日(月)～6月13日(金)	3,150円
第2回	12月13日(土)	学内	11月4日(火)～12月2日(火)	3,150円

問い合わせ先：外国語教育センター 2階 LL準備室

注) いずれも期日等変更となることがあります。詳細は後日、掲示等によりお知らせします。

テープライブラリをご存じですか？

外国語教育センター2階のテープライブラリは、外国語を学びたい学生が自由に自習できる施設で、ビデオデッキ(キャプション付きビデオも視聴できます)、カセットデッキ、LD、パソコン等の機材を備えています。

約5,000本のビデオ、カセット、CD、CD-ROM等の語学関係ソフトを揃えており、またCNNの視聴もできます。

授業の空き時間などに、ぜひ利用して下さい。

「職」と「食」の回生

学生自身は勿論のこと、保護者にとっても卒業後の進路は最大の関心事であり、就職期には学内に緊張が高まる。

最近では、就職も人物本位の選考が主流となつてきて、大学の就職支援方は腕の見せ所となっている。本学では、あらゆる事例に応えられる体制で取り組んでおり、その恩恵を受けた学生は数多い。しかし笛吹けど踊らず、英語辞書にもない「フリーター」で事足りる学生の数も無視できず、悩みは尽きない。

同類の問題は「食」にもある。食べたいものをいつでも賞味できる昨今にあつて、一部を除けば学生の食は実に貧しく不健全である。とくに一人住まいの学生はそうである。「ケータイン」なるものが生活の絶対的な必需品となつていて、その維持のため「食」の節約と短絡しているようである。食の貧困は、身体だけでなく心の衰微をもたらす不安を生む。

学生の多様化は避けられず、大学はその対応に苦慮している。変なカタカナに悩まされず、二つの「しょく」の健全を切望して止まない。



熊本県立大学学長 菅野 道廣

プロフィール/
久留米市出身。昭和37年、九州大学大学院農学研究科博士課程修了。専攻は食品機能学、脂質栄養学。九州大学教授を経て平成9年4月本学に着任。生活科学部長、環境共生学部長を経て平成12年9月、学長に就任。



熊本県立大学

発行：熊本県立大学

〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号

TEL.096(383)2929(代) FAX.096(384)6765

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

ご意見・感想募集

本誌についてのご意見、ご感想を下記にお寄せください。みなさまのお声を参考に、今後の学報編集を行っていきたいと考えておりますのでよろしくご願いたします。

〒862-8502(住所記載不要)

熊本県立大学地域交流センター「春秋彩」担当行

FAX:096-384-6765

E-mail:souki@pu-kumamoto.ac.jp

